

第4号・1996年6月

## あぁ、やっぱりここは日本なんだわ！！

それは、健康管理休暇も残りわずかとなった5月16日(木)のことでした。JICAでの同期連中との飲み会で久しぶりのカラオケを楽しみ気分よく帰宅すると・・・母が暗い顔で一言「空き巣に入られた。」慌てて自分の部屋に行くと引出しが全部開けられ、いかにも賊が入った後のようでした。

急いで調べてみると、無造作にテーブルの上に置かれたアクセサリー入れや、雑誌の間に置いてあった航空券や浩司さんのトラベラーズチェック(T/C)と現金は無事で、このアクセサリー入れに入っていた婚約指輪も無事だったのでほっと胸をなで下ろし、さらに詳しく調べていくと・・・「T/Cがない!!」そう、賊は、無造作に置いてあった宝石には目もくれず、ビギーバック(キャスター付きの旅行カバン)にしまっておいた私のT/Cと何故かタイバーツの現金を盗んでいったのです。

翌日(金)は警察に被害状況を報告、その翌日(土)アメリカンエクスプレス(アメックス)に電話して盗難にあったことを告げると、名前、生年月日、連絡先、本人確認のためパスポートもしくは免許証の番号、被害金額、T/Cの購入日と購入場所、警察の被害届の受理番号など色々質問され、わかる範囲の情報を知らせました。通常T/Cの盗難の場合再発行してもらうにはT/Cの番号が必要ですがこの時点では解らず、とりあえずネパールに帰ってから隣国もしくは日本のアメックスのオフィスに連絡することにしました。しかし、1日おいた月曜日、アメックスから電話があり、「購入日のある程度特定できれば銀行(私が購入したのは旧東京銀行の新宿西口にある支店でした)の控えてT/Cの番号を調べられる。」と言われ、手帳を調べ「昨年12月25日頃だ。」と告げました。1時間位たち再び電話があり、「T/Cの番号がわかりました。残額が850ドルあります。どのように再発行いたしますか。」と言われ、翌日に出発を控え時間があまりなかったため、三鷹から近い荻窪にあるアメックス本社に行き、国内の口座に相当金額を振り込む手続きをすることにした。

こうして被害報告をしてからわずか3日でT/Cが戻ってくることになり、アメックスの対応の早さ、情報把握の素晴らしさに感激し、T/Cの良さを実感しながらネパールへの帰途についたのです。親切に対応して下さった担当者の方に感謝いたします。(美澄)

## 驕るセレスも久しからず

我が家の乗用車カローラセレスは、ネパールで最も車高が低いと密かな自己満足に浸っていたのだが、先日赤ナンバー(ネパール民間人向け)のマツダRX7と遭遇し、さらに、セレスの兄弟車マリノまでリアスポイラー付きで登場して大きなショックを受けた。まさに盛者必衰の理である。でも、自国をよく知る現地人が、時速30kmも難しいカトマンズでガチガチのスポーツカー買ってどうすんの?まあ、そういうこと考えてなくて取りあえず買ってしまおうのもネパール人らしいといえどネパール人らしいが。(浩司)

## ネパールのゴミ問題 人が変わらねば社会は変わらぬ

ネパールで町を歩いていて時々不思議に思うことは、商店の売り子が自分の店の軒下から前の道に平気で物を投げ捨てることだ。ミカンの皮やリンゴのかじりかす、店内のゴミくず等。とにかく軒から外に出せばそれで平然としている。わが家の使用人が庭掃除して出てきたゴミを塀の外に投げ捨てるのを何度か目撃した。通りを歩いている人も、意外と平気で物を道に捨ててゆく。

私は昔銀行に勤めていた頃、早朝先輩より早く出社して店の前の歩道のタバコの吸い殻まで拾っていた経験があるだけに、こうした光景がとても奇異に思える。店の前が汚ければ、客は買いに来ない。家の塀の外が汚ければ、客を招けないし、そのうち誰かがゴミを捨て始めて新たなゴミ捨て場が形成されることもある。そうなれば誰だって嫌だろうと思うのだが。

商店の売り子が捨てたゴミを、他人が掃いている光景もよく目にする。この国では、ゴミ拾いの仕事はかなりの確率で世襲されている。以前チトワンの小学校を視察した時、ノートや教科書の切れ端が教室中に散乱していた。私たちは自分たちの教室は生徒自身がきれいにするものと教えられて育ったから、「なぜ生徒に掃除させないのか。」と校長に聞いたところ、校長は「それは用務員の仕事だ。」と平然と言った。

初等教育からこんなマインドでは、そう教えられた子供たちが大きくなっても、身の回りをきれいにするという発想はなかなか生まれてこない気がする。ゴミ問題は日本同様ネパールでも深刻である(と思う)。しかし、どこ国の援助機関もゴミ問題に手を染めたがらないのは、これが非常に困難なテーマだからだ。現にドイツがこれではまり、10年以上も苦勞している。でも、ゴミ問題をネパール人自身が認識するには、ただでも狭い私的空間がゴミに侵されない限り無理だろうと、ため息をつく毎日である。(浩司)

## 私の仕事紹介 (その3) 「パッケージ協力」

山頂より切り開かれた棚田、毎年のように雨期になると発生する土砂崩れ。森林の消失によってもたらされる土地の劣化、洪水及び土壌浸食は、丘陵地帯に生活するネパール村落住民にとって極めて深刻な問題となっている。しかし、こうした森林破壊は、村落住民自身の貧困に起因しているのもまた事実である。

村落住民の生活向上ニーズに直接アプローチする事業を、住民の参加によって展開してゆくことが、森林の利用圧力を軽減しその減少を食い止めるとともに、土壌の保全にも繋がる、さらには荒廃した森林資源の回復を図ることもできる。JICAは、1994年7月より、ネパール西部カスキ、バルバット両郡において、「村落振興・森林保全計画プロジェクト」を実施している。これは、青年海外協力隊の「緑の推進協力計画プロジェクト」及びJICA開発調査事業である「西部山間部総合流域管理計画」と協力し、村落住民ニーズとイニシアチブに基づき、生活水準向上のための事例的村落振興活動を通じて、地域の土地生産性向上と自然環境改善に寄与することを目的としている。三者の役割は以下の通りである。

(1) 協力隊プロジェクトは、山間部に隊員とローカルボランティアから成るチームを10チーム配置し、村落住民がニーズの掘り起こしとそのニーズに基づく地域振興計画の立案・実施・管理を自ら行なうのを支援する。住民とともに生活し、住民に対する同協力の概念と手法の普及を行ない、さらには住民によって立案された村落振興事業の利用者間意見調整や技術支援業務も行なっている。

(2) JICAプロジェクトは、各地方行政組織と連携し、協力隊チームが行なう村落振興事業の立案・実施に対して技術的・資金的支援を行なう。特に、専門家の派遣は、協力隊チームの活動への技術的アドバイザーとして、さらには各行政レベルでの調整等チーム活動への側面的支援者として大きな役割を果たしている。また、複数村落間事業については、このプロジェクトが主体的に調整を行なうと同時に、資金的支援を実施している。

(3) 開発調査は1995年12月より本格的に調査が開始され、適正な土地管理と住民生活改善のための長期的流域管理計画を策定し、上記2プロジェクトの今後の活動に必要な基礎的情報の提供と活動成果測定のためのベースラインの調査を行なう予定である。

地元のニーズを直接汲み取りやすいローカルNGOの柔軟性を取り入れ、住民自身による村落振興事業実施を支援し、その一方で、これまで地域振興策から漏れていた社会的弱者、女性等へも十分な配慮が講じられている新しい協力形態。まだ端緒についたばかりで、これが森林や土壌の保全に顕著な貢献を果たすまでには今暫く時間も要するが、住民自身が考え、自らの手によって生活の底上げがなされれば、持続的な環境保全策が図れるものと大いに期待されている。

(浩司)

## ああ、やっぱりここはネパールなのね...

飛行機で外国に行く場合、空港は玄関でありここを通過しないことには入国できない関所です。

ネパールに住んでいると、いつもその要領の悪さを感じますが、今回休暇から帰った時も、まず空港でそれを感じました。飛行機をおり、荷物を引き取るべくバゲイジクレームで荷物を待つのだが、エコノミークラスの荷物が先に来て、ビジネスクラスの私達の荷物は待てど暮らせど来ず、ようやく引取り税関を通過しようとする、そこもまた長蛇の列。通関の出口が一つしかない上に、1月下旬から導入されたx線で1人1人荷物をチェックしているのです。非効率きわまりなく、この空港の対応で、ネパールの印象が悪くなるのではないかと心配になりました。

ちなみに私達の場合、浩司さんの荷物がx線チェック後開けられ、ファックスモデムが引がかかったのですが、審査官がモデムを知らず「電話のコネクターです。」と言ったらパスポートに記載されずにすんだのも、ネパールらしいところ。ここでパスポートに記載されると、帰国するときに、持ち帰らねばなりません。こうして、結局空港を出たのが到着後1時間半はたったのでした。

(美澄)

## 編集後記

★約1カ月の健康管理休暇から戻ってきました。日本滞在中に駅伝も含めて4回のマラソン大会に「ベガサス走友会」のユニフォームを着て参加しました。メンバーの方からは、「ネパールで高地トレーニングできていいね。」とよく言われます。確かに海拔1400mから平地に下りてきて呼吸が楽だという感じはしましたが、長距離を走る足のスタミナはさっぱりで、最後に走った皇居の30kmはもうメロメロでした。筋肉痛に苦しみながら戻ったカトマンズは、蒸し暑かった。そして、空港でいきなり遭遇したネパール人の仕事の要領の悪さ。アメックスの対応の速さに感激した直後ただだに、ただただ呆れました。余談ですが、私が走友会に宛てた手紙が編集されて、月刊「ランナーズ」7月号114頁に掲載されました。少し照れくさいです。でも、これを良い意味でのプレッシャーとして、こちらでも地道に走り続けたいと決意を新たにしています。

(浩司)

★健康管理休暇中、日本では春とも思えないような寒さに震えていたのに、ネパールに戻ると夏の暑さで、数日間は慣れるのが大変でした。おまけに、楽しかった日本とのギャップで、何もする気が起きずどうしたものかと思いましたが、再びネパール語を習い、英語の学校に行くことでやる気も出て来ました。

雨季も始まり、晴れていると思っても急に暗雲立ちこめ、ガラゴロと雷が鳴り、毎日1回大雨が降ります。スコールなので1日中降り続く事はないようですが、停電の回数が多くなり、伝染病が流行る季節なので今まで以上に気を付けて、試行錯誤をくり返ししながらネパールでの生活を乗り切りたいと思っています。

(美澄)